

出題のねらい

㊦は、ふたつの小説、村上春樹「プールサイド」と東浩紀「クオインタム・ファミリーズ」からの出題です。前者をふまえて後者が書かれており、両者を関連づけて読むことが必要です。そのあたりがいつもと雰囲気異なる問題になっていますが、対応に悩まされるほど難しくはないでしょう。今回は古文問題の方が難易度が高かったようなので、こちらの問題は確実に正解を重ねておきたいところです。

㊧は、歴史物語『大鏡』時平伝からの出題です。藤原時平が若くして左大臣であった時、漢学の才もあって信望も厚かった右大臣の菅原道真が大宰権帥に左遷される事件が起こります。昌泰4年(901)正月25日のことです。子供たちも方々に流されます。道真は、慕い泣く幼い男児と女児だけを連れ、住み慣れた都の住まいを出て、大宰府に下ることになります。その時、道真が詠んだ「こち吹かばにほひおこせよ梅の花あるじ無しとて春を忘るな」は有名です。

㊦

【解答】(50点)

問一	a 一片    b 妥当    c 影響 d 寝顔    e 点検	(各2点×5)
問二	ウ	(3点)
問三	(1) イ (2) 死を少しずつ遠方にずらしていく	(3点) (3点)
問四	イ	(3点)
問五	自らを知るには自らの立った場所の正確な位置をまず知るべきだ	(5点)
問六	④なしとげたこと ⑤なしとげられる《かもしれない》こと	(3点) (3点)
問七	ア	(3点)
問八	フルスピードで泳ぐ	(5点)
問九	人生の半分と考えることのできる三五歳という歳を迎え、過去のすべてをリセットしたい衝動に駆られている。	(6点)
問十	ア	(3点)

【解説】

問一 毎年のことながら、漢字で合否が分かれる印象があります。八割正解を目指しましょう。必ず常用漢字から出題されますし、常用漢字の中でも難しくなく、また、日常的に使われる言葉ばかりです。日ごろから漢字問題の練習をしておけば、必ず好結果が期待できるはずです。しかし、実際は六割程

度の正解率だったようです。「一辺」「断当」「点険」といった誤答が目立ちました。

問二 難しかったようです。二割程度の正解率でした。「エ」と答えた人が多かったようです。もし78歳まで「しか」生きられない、と主人公が考えているなら「エ」が正解でしょうが、どうでしょう。よく読んでみてください。

問三 (1) 比喩はよく知られた文章技巧ですが、簡単に言えば、「ような」があれば直喩、無ければ隠喩です。よくできていました。

(2) 前問ができていればできるでしょう。これもよくできていました。

問四 よくできていました。

問五 よくできていました。

問六 ④も⑤も五割強程度の正解率でした。「どのような意味」かを問われていますが、「どのようなもの」かを答えてしまう誤答が目立ちました。主人公の考えを知る大事な問題でした。

問七 六割程度の正解率でした。「仮定法だから『もし』と書いてある選択肢が正解だ」とか単純に考えてしまうと間違えます。

問八 六割程度の正解率でした。注意深く正解を見つけること。難問ではないはず。

問九 「原点に戻って前向きに生き、後悔しないように人生をやりなおしたい」という希望にあふれる解答が目立ちましたが、そんなに元気な主人公でしょうか。気持ちを読み取ること。四割程度の正解率でした。

問十 現代小説の文学史は珍しかったかもしれませんが。二割以下の正解率でした。しかし、イもウもエも明らかに古い作家ばかりなので、消去法でアが正解である、と見抜いてください。

二

【解答】(50点)

問一	イ	(5点)
問二	ア	(5点)
問三	エ	(5点)
問四	エ	(4点)
問五	(春を告げる) 東風が吹いたら (梅の) 香りを東風にのせて都から大宰府まで 届けておくれ、梅の花よ。	(7点)
問六	命令表現 (命令形)	(4点)
問七	(1) 罪 (実) (4点) (2) 罰 (4点) (3) エ (4点)	
問八	(1) 宿 (住む) (4点) (2) 菅原孝標女 (4点)	

【解説】

問一 「べし」という助動詞は多くの意味を表しますが、選択肢ア・ウは適当、イは命令、ウは義務で解釈しています。「べし」が「…すべきよし言ふ」という形で用いられた場合は、「…せよと言ふ」という命令を表します。そもそも「宣旨」は命令を下達する文書ですから、イが最も適当ということになります。正解率四割程度。

問二 これも助動詞「べし」の用法に関わります。古典文法の教科書には欠脱していることが多いのですが、「べし」には運命を表す用法もあります。「さるべきにやありけむ」という挿入句味はぜひ知識として持っていてほしいもの。仏教的世界観を反映して「そうなる運命、そうなる前世からの因縁だったのか」と、因果応報の理か、としながら数奇な運命が語られます。「あり」が「おはし」と尊敬語に変わったもの。正解率は同じく四割程度。

問三 「あへなむ」は慣用句。「我慢しよう」という意味で使われます。それに釣られ、イと答えた人もいるかもしれませんが。文脈を辿れば、「小さき」は、「幼くおはしける男君・女君達」であることが分かります。「小さな者(を「かたがたに流」すこと)は我慢しよう。親と共に下向してよい」という意味で、エが正解です。正解率五割程度。

問四 「子どもあまたおはせしに…それも皆かたがたに流されたまひて」とあり、「同じかたにつかはざりけり」というのですから、「帝の御おきて」は、帝の処置が極めて厳しかったということです。正解率四割程度。

問五 「こち」が東風と分かるかどうか。「吹かば」と続くので、風ということは分かるかと思います。平安京から九州の大宰府へ、梅の香りを運ぶ風と気がつけば「東風」しかありません。「おこせよ」は下二段動詞「おこす」の命令形。現代語の「よこす(寄越す)」になる古語です。これからは、大宰府で寂しく暮らす私に春の到来を知らせるよう、「御前の梅の花」に向かって命令しています。正解率が二割程度でした。

問六 和歌Aの「おこせよ」に加え、Bも「とどめよ」と命令しています。「自信家で激しい気性の持ち主」にふさわしい表現といえば、命令表現ということになります。正解率五割程度。

問七 (1)「無実の罪」という言葉を聞いたことがあるかと思います。「なきことにより、かく罪せられたまふ」はそれに相当します。何がないのか、と問われれば「実」あるいは「罪」ということになります。正解率五割程度

(2)「罪せられ」とは、「罰せられ」ということです。正解率六割程度。

(3)「かしこく」には、程度がはなはだしいさまを表す副詞的な用法があります。「かしこく…嘆く」は、ひどく嘆くの意。正解率四割程度。

問八 (1)「君が住む宿」の「君」がもし帝であれば、「君が住む内裏」あるいは「君が住む御所」と表現されるはずで、「宿」とあるので「君」は、道真の妻を指していると考えられます。「帝」と考えられない根拠となる単語と、「単語」という指示も見落とさないように気をつけてください。正解率二割程度。

(2)『更級日記』の作者で、菅原孝標女と答えられるように、高等学校の国語の教科書に掲載されている程度の文学史の学習はしっかりとしておきたいものです。「藤原」と答えた人もありましたが、菅原道真の子孫というヒントを見落とさないこと。「菅」を「管」と、また「孝」を「考」と書く誤字にも注意が必要です。正解率やはり二割程度。

【現代語訳】

醍醐天皇の御時世、時平のおとどは、左大臣の位で年はたいそう若くていらっしゃる。菅原道真のおとどは、右大臣の位でいらっしゃる。その折、帝はたいそう若くていらっしゃる。左右の大臣に政治を行えと宣旨をお下しになったが、その折、左大臣は御年二十八、九歳ぐらいである。右大臣の御年は五十七、八歳でいらっしゃただろうか。共に政治をなさったけれども、右大臣は、学才がたいそう優れ、素晴らしくいらっしゃり、御思慮も、ことのほかに、深くていらっしゃる。左大臣は、御年も若く、学才もことのほかに劣っていらっしゃるので、右大臣への帝の御信任が、格別でいらっしゃるので、左大臣は心穏やかでなくお思いになっていたが、そうなる前世からの因縁でいらっしゃったのだろうか、右大臣にとってよくない事が起こって、昌泰四年正月二十五日、右大臣を大宰権帥に左遷申し上げて、大宰府に流されなさる。

道真のおとどは、子どもが大勢いらっしゃったが、女君達は婿をとり、男君達は皆それぞれに位についていらっしゃったが、その方々も皆様々な所に流されなされて、悲しい上に、幼くていらっしゃった男君・女君達が、大宰府に流されていく父親を慕い泣いていらっしゃるので、「幼い者は、差し支えなからう」と、朝廷も、大宰府に連れていくことをお許しになったことであるよ。帝の御処置は、極めて厳しくていらっしゃったので、それ以外の道真の子どもたちを、同じ方面に流すことはなさいませんでした。

様々たいそう悲しくお思いになって、御前の梅の花を御覧になって、

A 東風が吹いたら匂いを運んでおくれ梅の花よ、主人がいないからといって春を忘れるな。

また、宇多天皇に申し上げなさる歌、

B 流されていく私はすっかり水屑になってしまいます。君は柵となって私を留めてください。

無実の罪によって、このように罰せられなさるのを、ひどく嘆いて、そのまま山崎で出家なされて、都が遠くなるにつれて、悲しく心細くお思いになって、

C 君が住む宿の梢を、旅を続けて隠れるまで、振り返り見たことよ。